

第1学年 英語科学習指導案

日時：平成29年5月22日

場所：1年C組教室

学級：1年C組（29名）

1 単元名 NEW HORIZON ENGLISH COURSE 1

Unit1 はじめまして

2 指導の立場

(1) 題材について

初回の英語授業で初対面する人同士が行うやり取りが題材となっている。ベーカー先生があいさつと自己紹介をし、生徒の名前を確認する。そして生徒が先生に質問するといったコミュニケーションの第一歩となる「出会い」がテーマになるものである。生徒たちには、コミュニケーションの下支えになるアイコンタクトや相手に失礼のない質問の仕方や答え方などを本単元を通して気づかせ、学ばせたい。また、I am ～.と You are ～.のほか、Call me ～.や be in (on) the ～ club (team)という自己紹介で使う表現や Are you (from) ～?といった相手に質問するコミュニケーションツールを繰り返し使い習得させ、初対面の人と会話ができる力をつけさせたい。

<言語材料>

be 動詞 (am, are)

自分や相手のことを説明する

I am ～. You are ～.

疑問文とその答え方

Are you ～? Yes, I am. / No, I am (I'm) not.

出身地を尋ねる表現と付け加えて答える表現

Are you from ～? No, I am not. I am not ～.

<言語活動>

本単元の学習で中心となる指導事項は「話すこと」(ウ)、聞いたり読んだりしたことなどについて、問答したり意見を述べ合ったりなどすること。である。相手意識をもち、話題や伝えたいことを明確にして話す力を付けたい。

(2) 生徒の実態

男子15名、女子14名、計29名の学級である。英語学習に対して、多くの生徒が前向きな姿勢で取り組んでいる。身の回りのものや数字、曜日、月、アルファベットなど声に出して繰り返し発音練習する活動では、失敗を恐れず堂々と英語で表現する生徒や、小学校で学習した語句など、知っていることは進んで英語で表現しようとする生徒が見られた。しかし、中には英語が苦手だと訴えている生徒や一斉指導では理解できない生徒が4人程度見られた。そこで、本単元に入る際に生徒たちの実態調査を行った。以下がその結果である。

質問1 英語についてどう思いますか

得意・好きである 8人 苦手である 7人 苦手だけど好き 14人

質問2 英語を話すことに対してどう思いますか

苦手である 5人 苦手であるが楽しい 7人 楽しい 16人 その他 1人

質問1により、英語に対して苦手と感じている生徒が21人と半数以上であることが分かった。原因として、「失敗することを恐れている」と自由記述する生徒が多くいることが考える。第二言語を学習することへの難しさや不安を感じる生徒が多いことが分かる。しかし、苦手な生徒の中で、3人に2人の生徒はそれでも好きであると答えている。さらに質問2では、英語を話すことについては楽しいと答えた生徒が半数以上いることから、苦手ながらも話そうと意欲的に取り組んでいる生徒がいることが分かった。

どの生徒も自信を持って新出表現を理解し、活用できるための手立てを繰り返し行う必要がある。質問1で、英語が苦手と感じる生徒の中で英語を話すことが楽しいと感じる生徒が4人いた。本時では、ペア活動で教え合う活動を仕組み、自身を持って会話活動に取り組み、少しでも「できる」と実感させたい。

3 研究内容との関わり

本年度の研究主題を受け、英語科における学ぶ楽しさを実感できる生徒の姿を以下のように捉えた。

既習内容を駆使して、自分の考えや想いを相手に伝えたり、相手のことを理解したりしようとする姿

本時のねらいは、「自分の知りたいことを相手の応答に関わらせながら **Are you (from) ~?**を使って2往復程度の質問をすることができる。」である。基本表現を使って、相手の話を捉えて質問できる実践的な力を育てたいと考えている。そこで本校の研究の全体構想図をもとに、次のような手立てを打つ。

(1) 意欲的に学ぶための導入の工夫

JTEが本時の学習への動機づけを行う。間近に迫る研修で仲間と協力し合い、関わるためにもお互いのことをよく知っておくとよいことを伝え、お互いのことをどれだけ知っているか、考えさせる。お互い、まだ知らないことが多いことに気づかせ、どうすればもっと仲間のことを知ることができるか、写真の人物を例に答えさせる。質問をして、相手のことを知る動機を持たせて、本時の課題「わくわく質問して仲間のことを知ろう。」につなげていく。

(2) 一人一人が考えを深めるための活動の工夫

まず、写真の人物になって一方が質問をする対話活動を行う。何を質問するか、ペアで話し合い、質問方法を確認して、会話させる。これにより、全員が活動方法を理解し、会話をさせることができる。ジェスチャーや相手の言葉を繰り返したり、反応したりする生徒を価値づけながら、関わりのある質問の仕方を理解させる。生徒の質問の一つ取り上げ、その質問に対し、**Yes, I do.**と答えられたら、どうするか、全員で考えさせ、関わって質問するとより詳しい情報が得られることに気づかせる。これにより、全員が関わらせて質問ができる状態をつくることができる。

(3) 学びや伸びを自覚するための終末の工夫

本時の終末では、共通点を探す活動を行い、全員が関わらせた質問をしながら2往復以上の会話ができたか、課題達成を見届ける。その際は、メモなどを見ずに、自分が聞きたいことをその場で質問させるようにする。その場で質問を考えさせることで、より実践的な運用能力を育成することができるから。関わらせて質問ができた生徒を価値づけ、その良さを広め、活動させる。その繰り返し指導により、全員がねらいを理解し、活動することができる。活動終了後、話したことをノートに書かせて、全員の課題達成度を見届ける。

また、1年を通して、各単元で扱う言語材料のみにとらわれず、小学校で学習した表現を使うことも推奨している。これは、小学校で学習したことが中学校で生かされる場を作りたいと思うからだ。本時では、**Are you~?**を使うことが基本だが、以下のような表現をする生徒も予想される。これらを使う生徒がいれば、それを価値づけ、表現の幅をさらに広げる生徒の育成に努めたい。

What ~? 何? Do you like ~? ~好きですか。 I like ~. ~が好きです。

<p>第1学年 単元指導計画【全7時間】 単元名：Unit1 はじめまして</p>	<p>時 ① オリエンテーション[L]</p>	<p>② Part1[R]</p>	<p>③ Part1 [SL]</p>
<p>【単元のねらい】 自分が知りたいことについて【話題】、相手の名前や出身などを【内容】、相手の発話に関わらせながら【表現方法】、2往復程度の対話【程度】ができる。</p>	<p>海外の人たちのモデルを観ることを通して、相手の話を関わらせながら会話するという中心となる言語活動の概要や学習内容を理解し、単元の見通しをもつことができる。</p>	<p>ベーカー先生の自己紹介を通して、聞き手を意識して自己紹介していることを読み取り、その大切さを理解することができる。</p>	<p>自分のことについて述べるときは、I am を用いることを理解し、相手を意識した自己紹介を本文を基にすることができる。</p>
<p>【「単元を貫く課題」と「中心とする言語活動」】 課題：相手を詳しく知るために質問しよう。 言語活動：インタビュー【やりとりの要素が強い言語活動】</p>	<p>①導入[L] ・Oral Interactive Introduction を通して、単元の学習内容の概要と単元を貫く課題を理解する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 会話をするこつて考えよう。 </div>	<p>①帯活動[S] ・ Small talk ②導入[L] ・ Oral Interactive Introduction を通して、本時の課題を理解する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> ベーカー先生はどのように自己紹介をしているのだろう。 </div>	<p>①帯活動[S] ・ Small talk ②導入[L] ・ Oral Interactive Introduction を通して、本時の課題を理解する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> ベーカー先生流自己紹介をしよう。 </div>
<p>【重点となる指導事項と「つきたい力」及びその評価方法】 指導事項： 「話すこと」(ウ) 聞いたり読んだりしたことなどについて、問答したり意見を述べ合ったりなどすること。 「つきたい力」 相手の発話に関わらせながら、知りたい情報を引き出す質問することができる。 「評価方法」 相手の名前や出身地などについて、相手の発話に関わらせながら質問することができる。</p>	<p>②内容理解[L] ・動画からそれぞれの人物たちが話していることを聞き取る。 【聞き取りの視点】 <input type="checkbox"/>それぞれの人物たちは何をしているのか <input type="checkbox"/>名前は何か <input type="checkbox"/>どのように工夫して話しているのか ・動画の内容を確認する。単元を通してつきたい力と学習の見通しを理解する。</p> <p>③全体交流から会話をする上で何を大事にすべきかを日本語で書く。[W]</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> ◆考えがすぐ浮かばない生徒のために、話し方の観点をキーワードで黒板に位置づける。 </div>	<p>③新出単語の意味・発音の確認、練習 ④教科書本文の内容を理解する。[R] 【読み取りの視点】 <input type="checkbox"/>ベーカー先生はどのように名乗ったか。 <input type="checkbox"/>なぜ一文字ずつ発音したのか。 <input type="checkbox"/>何と呼んでほしいと言っているのか。 ・教師との問答を通して、内容を理解する。 ⑤教科書本文の音読練習をする。[R] ⑥教科書の絵や、ベーカー先生の話し方から、他に工夫している点を探す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> ◆ベーカー先生の話している様子が分かる画像や、CD で聞かせて話し方を確認させる。 </div> <p>⑦表現活動[S] ・ベーカー先生の気持ちになって相手を意識して読み合わせる。</p> <p>⑧自己評価と振り返り</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 話すときは、相手を意識して話すことが大切であることが分かった。 </div>	<p>③文法の理解 I am の用法を理解する。 教科書 p.23Listen を行う。[L] 【聞き取りの視点】 <input type="checkbox"/>自己紹介をしている時間は何か。 <input type="checkbox"/>名前は何か。 ・全体で内容を理解する。 ④相手を意識した自己紹介を行う。[SL]</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> S1: Good morning. S2: Good morning. S1: I'm Ryoki. R-Y-O-K-I S2: Oh, Ryoki. S1: Call me Mr. Ryoki. S2: OK. </div> <p>⑤たくさんの仲間と交流する。[SL]</p>
<p>【言語材料】 be 動詞の肯定文 be 動詞の疑問文</p>	<p>④自己評価と振り返り</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 会話や話をする際には、伝え方を工夫するとよいことが分かった。 </div>		
<p>【Presentation1 と本単元とのつながり】 本単元では、相手のことについて質問する表現を学ぶ。本単元では理解した内容を示す語句を繰り返したり、さらに詳しく知りたい内容や情報について質問したりするなどして、話題を広げたり、考えを深めたりしながら指導にあたる。 また、強勢、区切り、イントネーションの指導も平行して行い、Presentation1 での自己紹介を聞いて、その内容に関わらせて質問する言語活動とのつながりをもたせる。</p>	<p>・②においては、アイコンタクトやジェスチャーをしながら話している内容を取り上げる。</p>	<p>・④においては、ベーカー先生が何を意識して話しているかに着目して読み取りを進めるように助言する。 ・「基本練習」は⑥のパターンプラクティスとして取り扱う</p>	<p>⑥交流した英文をノートに書く。[W] ⑦自己評価と振り返り</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 相手を意識した自己紹介をすることができた。 </div> <p>・④においては、教科書の本文を参考に自己表現をする。</p>

4時	④ Part2 [R]	⑤ Part2 [LS]	⑥ Part3 [R]	⑦ Part3 [LSW] 本時
ねらい 学習活動 教科書の取り扱い	<p>Are you ~?の意味・形式・機能を理解し、ベーカー先生と咲の対話を読み取ることを通して、ベーカー先生がどのような意図から質問したのか理解することができる。</p> <p>①帯活動[S] ・ Small talk ②導入[L] ・ Oral Interactive Introduction を通して、本時の課題を理解する。 ベーカー先生はなぜ質問したのだろう。</p> <p>③新出単語の意味・発音の確認、練習</p> <p>③文法の理解 Are you ~?の用法を理解する。 Are you Lily Parker? Yes, I am.. 教科書 p25 を使い、パターンプラクティスをする。</p> <p>④教科書本文の内容を理解する。[R] 【読み取りの視点】 □なぜ名前が分かったのだろう。 □なぜ柔道部かを聞いたのだろう。 ・教師との問答を通して、内容を理解する。</p> <p>⑤教科書本文の音読練習をする 一語読み、ペア読み ◆質問した意図を理解しながら、抑揚や速さに気をつけて読ませる。</p> <p>⑨自己評価と振り返り ベーカー先生は、咲の持ち物を見て質問をしていたのだと理解でき、読むことができた。</p>	<p>Are you ~?を使って、相手のことについて意図をもった質問をすることができる。</p> <p>①帯活動[S] ・ Small talk ②導入[L] ・ Oral Interactive Introduction を通して、本時の課題を理解する。 意図をもった質問をしよう</p> <p>③教科書 p.25 Listen を行う。[L] 【聞き取りの視点】 □百合香の所属している部。 □ピーターの所属している部。 ・全体で内容を理解する。 ◆ピーターが「Oh, tennis racket.」と、相手の所持品から質問が生まれたことをおさえる。</p> <p>④仲間のことについてペア交流する。[SL] S1: Are you Ryoki? S2: Yes, I am. C sll me Mr. Ryoki. S1: OK. Oh, glasses Are you smart? S2: Yes, I am. Thank you.</p> <p>◆聞き手は、相手の話した内容が意図をもった質問だったか考えながら聞くように指導し、全体交流する場を設ける。</p> <p>⑤交流した英文をノートに書く。[W] ⑥自己評価と振り返り Are you ~?を使って、仲間に意図をもった質問をすることができた。</p>	<p>光太の質問を読み取ることを通して、それぞれの質問には、関連づけられていることに気づくことができる。</p> <p>①帯活動[S] ・ Small talk ②導入[L] ・ Oral Interactive Introduction を通して、本時の課題を理解する。 どのように光太は質問したのだろう。</p> <p>③新出単語の意味・発音の確認、練習</p> <p>④文法の理解 否定の用法を理解する。 Are you from New York? No, I am not. 教科書 p27 を使い、パターンプラクティスをする。</p> <p>⑤教科書本文の内容を理解する。[R] 【読み取りの視点】 □なぜニューヨーク出身であるかと聞いたのか。 □なぜレッドソックスファンであると聞いたのか。 ・教師との問答を通して、内容を理解する。</p> <p>⑥教科書本文の音読練習をする。[R]</p> <p>⑦自己評価と振り返り 光太は、相手の応答を受けて、質問していることに気づくことができた。</p>	<p>自分の知りたいことを相手の応答に関わらせながら Are you (from) ~?を使って 2 往復程度の質問をすることができる。</p> <p>① 導入[L] 教師の口頭導入を通して、本時の活動と課題を理解し見通しをもつ。 わくわく質問して、仲間のことを知ろう。</p> <p>② 言語活動 I [S] 写真の人物のことを知るには、何を尋ねれば良いか考える。 ・ペアで相談し、何が聞けそうなのか質問内容を考える。[前後ペア] ・ペアを変え、質問者と写真の人物になって会話する。[2度行う。左右ペア]</p> <p>③ 中間交流 よりやりとりのある質問を考えるための方法を知る。 ・生徒の例文を提示、それに対し、Yes, I am.と答えたときにどう質問するか考え、関わらせて質問するとより詳しく相手の情報を知ることができることに気づく。</p> <p>④ 終末活動[S] 中間交流を通して、質問内容を精選し、関わった質問をする。 ・少ない時間で、相手に詳しく尋ねるための質問を、ペアで考える。[前後ペア] ・ペアを変え、関わった質問をして共通点を探す。[2度行う。左右ペア]</p> <p>⑤ まとめ 対話したことをノートに書いて、本時の学習をふり返る。</p> <p>⑥自己評価と振り返り Are you (from) ~?など既習表現を使って、2 往復程度の関連づけた質問をすることができた。</p>
		<p>・③では、教科書 p25 の「基本練習」を行う。反復することで、基本表現の定着を図る。 ・④では、教科書の絵を参考にするように伝え、咲の所持品から質問したのだと気づかせる。</p>	<p>・④においては、意図をもって質問できた生徒を価値づけ表現方法を広めて 2 回目以降の活動につなげる。意図をもった質問をすることで、やりとりが深まることを指導する。</p>	<p>・④では、教科書 p27 の「基本練習」を行う。反復することで、基本表現の定着を図る。</p>

【本単元における評価規準】		
関心・意欲・態度 コミュニケーションへの	<p>【言語活動への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・間違いを恐れずに、自分が知りたいことについて一生懸命相手に質問しようとしている。(観察) <p>【コミュニケーションの継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が知りたい情報について、相手の理解を確かめたり、もっと知りたいと感じたことを質問したりしながら、やりとりを継続しようとしている。(観察) 	
外国語表現の能力	話す	<p>【適切な発話】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・be 動詞の疑問文を適切に用いて、相手の情報を引き出す質問をすることができる。(観察) ・理解を確かめたり、伝えたい語句を強調したりして、明確に話すことができる。(観察)
	書く	<p>【正確な筆記】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の名前や出身地を尋ねる質問を、正確な英文を書くことができる。(ワークシート)
外国語理解の能力	聞く	<p>【適切な聞き取り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手が話した内容について、理解できたことを繰り返したり、さらに詳しく知りたい内容や情報について、質問したりすることができる。(観察)
	読む	<p>【正確な読み取り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベーカー先生と生徒達の3往復程度の対話の内容を理解することができる。(ワークシート)
言語や文化についての知識・理解	<p>【言語についての知識】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・be 動詞の肯定文や、疑問詞を正しく用いて、単語や英文をつくることができる。(テスト) 	

平成29年度 大野中学校学習到達目標

大野町立大野中学校英語科

	1年生	2年生	3年生
聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> 自分の身の回りの人物やその生活について（話題）， 話し手の考えや，それを支える事実を（内容）， 相手の言ったことを繰り返して確認しながら（表現方法）， 3往復程度の対話を聞くことができる（程度）。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の身の回りの人物の考えや他地域の生活について（話題）， 話し手の考えとその理由，またそれらに関する事実を（内容）， さらに詳しく知りたいことを質問しながら（表現方法）， 5往復程度の対話を聞くことができる（程度）。 	<ul style="list-style-type: none"> 興味をもった人物の生き方や他地域の文化について（話題）， 客観的な事実や様々な考え等に基づいた話し手の意見や主張とその根拠等を（内容）， 別の表現で言い換えて内容を確認したり，自分の考えを付け足したりしながら（表現方法）， 7往復程度の対話を聞くことができる（程度）。
話すこと	<ul style="list-style-type: none"> 自分自身や自分の身近な人，もの，行事について（話題）， 簡単な事実や自分の気持ちを（内容）， 	<ul style="list-style-type: none"> 自分自身に関わることや自分が生活する地域に関わることについて（話題）， 自分の考えやその理由を（内容）， 	<ul style="list-style-type: none"> 自分自身や日本に関わることについて（話題）， 客観的な事実や主張を（内容），
	<ul style="list-style-type: none"> 最も伝えたいことを繰り返したり，新しい情報をつけ加えたりしながら（表現方法）， 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の考えに理解を示したり分からないところを尋ねたりしながら（表現方法）， 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の意見に関わらせて自分の立場を明確にしながら（表現方法），
	<ul style="list-style-type: none"> 英語特有のリズムやイントネーションで話題に一貫性をもたせながら（表現方法）， 	<ul style="list-style-type: none"> 過去や未来のことについて触れたり，具体物や対比を効果的に使ったりしながら（表現方法）， 	<ul style="list-style-type: none"> 聞き手を納得させるために，現在過去未来の事実やデータなどを用いながら（表現方法），
	<ul style="list-style-type: none"> 3往復程度の対話で話すことができる（程度）。 	<ul style="list-style-type: none"> 4往復程度の対話で話すことができる（程度）。 	<ul style="list-style-type: none"> 5往復程度の対話で話すことができる（程度）。
	<ul style="list-style-type: none"> 中心となる話題に対して5文程度の英文で話すことができる（程度）。 	<ul style="list-style-type: none"> メモやキーワードを見ながら7文程度の英文で話すことができる（程度）。 	<ul style="list-style-type: none"> 10文程度の英文で話すことができる（程度）。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> 自分の身の回りの人物やその生活について（話題）， その概要や要点，筆者の気持ちを（内容）， キーワードをもとに推測しながら（表現方法）， 150語程度のまとまった英文を読むことができる（程度）。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の身の回りの人物の考えや他地域の生活について（話題）， その概要や要点，筆者の気持ちや意図を（内容）， キーワードやその前後の文脈，段落構成をもとに推測しながら（表現方法）， 200語程度のまとまった英文を読むことができる（程度）。 	<ul style="list-style-type: none"> 興味をもった人物の生き方や他地域の文化について（話題）， その概要や要点，筆者の気持ちや意図，登場人物の気持ちを（内容）， キーワードやその前後の文脈，段落構成，文構造をもとに推測しながら（表現方法）， 250語程度のまとまった英文を読むことができる（程度）。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> 自分自身や自分の身近な人，もの，行事について（話題）， 簡単な事実や自分の気持ちを（内容）， 語順や文と文の内容的なつながりに注意しながら（表現方法）， 5文程度の英文で書くことができる（程度）。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分自身に関わることや自分が生活する地域に関わることについて（話題）， 事実や考えを（内容）， 過去や未来のことについて触れたり，具体例や対比を効果的に使ったりしながら（表現方法）， 7文程度の英文で書くことができる（程度）。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分自身や日本の文化，海外の文化に関わることについて（話題）， 客観的な事実や主張を（内容）， 読み手を納得させる文章構成を考えたりしながら（表現方法）， 10文程度の英文で書くことができる（程度）。